

---

# 名言集 ver ~ D y n a m i C

リリカルZ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

名言集 ver\Dynamic

### 【Nコード】

N1681Z

### 【作者名】

リリカルZ

### 【あらすじ】

今まで書いてきた中でこれと思った名言や迷言などを作者自身の独断で選ばせて貰いそれを載せてみました。それだけです。

興味がありましたらご覧になって下さい。

名言その？ DYNAMICの章 STS編（前書き）

最初は『Strikers編』からです。

## 名言その？ Dynamicの章 STS編

序章より

「お爺ちゃん・・・俺はやるよ。何時か俺の作った宇宙船で宇宙に住むいろいろな人々と交流を深めてみせる・・・だから、天国で見守っていてくれ」

甲児の祖父への強い想いと夢へ向かってまっすぐに突き進んでいる現状を表した言葉。

これにより甲児がどんな人間か大体分かりそうな気がします。

「はっはっは、何もそんなに慌てる事は無いじゃないか・・・あいかわらずだなあ甲児くんは」

弓教授が急ぎ転移装置に向かい走っていく甲児に向かって笑いながら言った言葉。

いくつになっても甲児は甲児なのだなあと言う安心感の籠った一言にも感じられます。

「おいおい、グレートは見世物じゃないんだぞ」

石油タンカーを持ち上げたグレートの話をされて見世物扱いされて少しムツとした鉄也の台詞。

確かにグレートは見世物じゃありませんが、どっちにしてもあの後

見世物になる予定だった筈。  
ではこの言葉は矛盾しているのでは？・・・

「フフフ・・・フリード星にいたら少し頭を冷やさせてあげるわね」

転移装置の中に入って楽しそうにしていた甲児に向かいさやかが放った一言。

同じ言葉でも彼女が言つと更に恐怖が増す気がします。

StrikerS編開幕 出合いより

「確かに不安もあるさ、けどこうして地球以外の星でこうして交流が持てると分かると逆に嬉しくて仕方ないんだよ」

甲児が尋ねてきたティアナとスバルに向かって言った言葉。

甲児のような肝っ玉の強さが無ければこんな事いえませんでした

「うゝむ、ヘソだし天然っ娘か、ツインタールのツンデレ・・・うゝむ、どちらも捨てがたいの」

ティアナとスバルを見ながら十蔵が呟いた一言。

天然とツンデレは切っても切れない縁なのでしょうか？

そして、何故そのネタを80目前の爺が知っているのか？  
それはまた永遠の謎である。

「丁度人暴れしたかったところだ、纏めて面倒見てやるから来やがれ！」

突如現れた機鋼兵に向かい腕を鳴らしながら甲児が言った言葉。

昭和の人間はどうも喧嘩っぱやいのが多いらしいですね。

平成のもやしっ子はそんな危ない事絶対に言わない筈です。

・・・多分。

「くそお・・・こんな時に・・・こんな時に・・・マジンガーがぁりやぁあんな機鋼獣なんてぶちのめしてやるのに・・・」

機鋼獣を前に無力な甲児が呟いた一言。

何度も言いますがマジンガーに乗ってない兜甲児は只の人間です。

魔道師のようにビームを放ったり空を飛んだり出来ません。

それからこの一言が出たのだと思われます。

「あの野郎・・・人の十八番をパクリやがって・・・」

甲児が腕を飛ばした機鋼獣に向かい放った一言。

だが、正しくはマジンガーの十八番であって貴方ではありませんよ

鉄の魔神 前編より

「お前、ガキの癖に副隊長なんてやってるのか？」

「信じられねえ・・・1000年も生きててそれっぽっちしか背が伸びねえってのも悲しいなあ」

二つともはじめて甲児がヴィータを見て呟いた台詞です。

人は見かけによらないと言いますがこれは余りにも失礼な発言ですね。

・ その代償として甲児はこの後アイゼンでボコボコにされましたが・

「マジンガーに乗ってない俺はこんなにも弱いんだからよ・・・」

機動六課の面々の凄さを知って如何に自分が弱いかを思い知った甲児がふと呟いた台詞。

彼等とは違い甲児は自分一人の力では戦えないと言うもどかしさを感じさせる台詞となります。

ですがこの後機鋼獣を素手で倒してしまうのですが・・・

「何だ、この世界の騎士ってのは腑抜けの集まりなのか？」

「一度戦って駄目だったから諦めるのかって聞いているんだよ！」

二つ共騎士の名が指す通りシグナムとヴィータに向けて言い放った言葉です。

移動中に現れた機鋼獣。

それに対し成す術がないと悔しがる二人に甲児が叱咤した言葉です。

『へっ、無茶は俺の専売特許だぜ！』

甲児が皆に言った台詞。

これも普通平成っ子は絶対に口にしない台詞ですね。  
つくづく甲児はガキ大将タイプの人間と思われます。

鉄の魔神 後編より

「頭冷やしいや！あないな巨大な機鋼獣に生身のあんたが挑んで勝てる筈が無いやろ！」

機鋼獣が機動六課隊舎にやってきたという知らせを聞いて一目散に飛び出そうとした甲児をはやてが止めた際に言い放った台詞。  
確かに生身では20mの巨大な怪物には勝てませんって・・・



「やいやい！ テメエら何人ん家に土足で入り込んでんだ？ 来るんならノック位しやがれ！」

甲児が殺人アンドロイドに向かって言い放った台詞。  
でも、ノックって何処でやるの？

「男つてのはな・・・自分より弱い奴を助ける為に命を賭けるんだ・・・それになあ・・・こんなの只のかすり傷だぜ」

甲児がはやてを庇った際に言った台詞。  
しかし、両肩両足を貫かれてかすり傷とか言っても説得力がない気が・・・

「へ、まさかこここうして話せる日が来るなんてな。夢にまで見たのが現実になるなんてな」

ズグローブを手に入れた甲児がそれを見て呟いた台詞。  
長年の夢が叶ったと言った想いが伝わります。  
でも・・・普通叶わないよねえ

「テメエらが傷つけた俺の仲間たちの分・・・100倍にして返してやるぜ！」

マジンガーズに乗った甲児が機鋼獣の前にして言い放った台詞。  
甲児の怒りがひしひしと伝わってきます。

「遂に目覚めたのだな・・・甲児よ・・・だが、本当の戦いはこれからだ！これから先、もつと強力な機鋼獣が現れる！だが、お前とマジンガーなら決して負ける事は無い！戦うんだ！甲児」

マジンガーの圧倒的戦いぶりをモニター越しに呟いた謎の人物の台詞。

その言葉の通りこの後甲児には幾多の激闘が待ち受けていた。

特訓より

「そう・・・それもその未来は間もなく訪れる・・・機械と鋼鉄により作られた獣、『機鋼獣』の手によって」

会議を行っていた管理局の高官達に謎の老人が見せた最悪の未来。それを見た高官達の殆どが戦慄と恐怖を覚えたに違いない。それほどまでに衝撃的な未来だったのです。

「ですが、未来を変えるには仕方の無い事だと思えます・・・背に腹は変えられません」

パニック寸前の高官達をレジアス中將が纏め上げる際に言った台詞。原作とは違いかなり丸いキャラになってしまったとこの時は反省していました。

「すまねえな・・・俺がモタモタしてたばかりに・・・安らかに眠ってくれよ」

「この世界は私達がきつと守ってみせるから・・・今は静かに休みなさい」

戦闘を終えて、その際に犠牲になった魔道師達の遺体を運びながら甲児とさやかが呟いた台詞。

世界は違えど同じ命。

その命の尊さを二人は知っていたのだ。

「いんや！この人等はうちの仲間やったんや！うちが最後に弔ってやらんと可愛そうや！」

甲児とさやかの行いをやろうとした際に二人に言った言葉。

仲間をせめて弔いたいと言うはやての優しさがこの言葉から見える気がします。

「何処の世界に行っても、死に別れてのは辛いな・・・」

甲児が遺体を運びながら呟く。

世界は違っても人の死は心を痛めます。

「それにな、今俺には家族同然の仲間達が居るんだ。寂しさなんて感じる暇すらねえぜ」

家族の死は誰でもとても痛々しいものです。

ですが、甲児はそんな気持ちなど感じさせずに笑顔で言いました。  
兜甲児とは其処まで強い青年なのです。

「あれで魔法かよ！どう見ても機械じゃねえか！あれじゃ『魔法少女リリカルなのは』よりも『機甲少女メタリックなのは』って名乗った方がしっくりくるぞ！」

さり気にギャグ気を出す為に甲児に言わせました。  
元ネタは勿論あのアニメのタイトルです。

「何て言うか・・・力だけを求めてるって言うか・・・無理して強くなろうとしてるのが見えるんだよなあ」

かつて甲児にも似た様な時期があっただけに分かるようです。  
勿論遠くからフォワードメンバーの特訓を見てた際の言葉ですよ。

「今の特訓・・・もし鉄也さんが見たら何て言うと思う？」

フォワードメンバーの特訓風景をもし特訓マニアが見たらなんと言  
うか。

そんな不安が感じられる一言でした。

「ま、三枚に卸されない事を祈るか」

模擬戦を行う事になった甲児とシグナムを見てヴィータが呟いた台  
詞。

物騒どころが縁起が悪すぎます。

つてか、魚でもないのに三枚に卸せるのか？

「ご、誤解だ！シグナムさん！今のは事故であって決してわざとじ  
やないんだ！これ本当だから！」

模擬戦の際に思いっきりシグナムの『ボイン』に触ってしまった甲  
児。

今更弁解しても全てが『遅すぎます』

ホテルアグスタ　　より

「無い頭を絞った所で口くさな策など沸かぬだろう」

度重なる敗北に苦渋の想いを募らせるシュラに対し機鋼騎士のアギレスが吐き捨てた言葉。

それほどまでにこの時はシュラを無能者と思っていたようです。

「お、こりゃ結構ポリウムあるでえ、なのはちゃんの時と少し違う気もするけど・・・大きさは同じ位やなあ」

ダイナミックキャラは基本的にボインが多いです。

胸マニアのはやてはきつと大満足するでしょう。

と、思いながら書きました。

「何言つてんだ！エリオ、お前も男の子だろう！これ位聞いて顔を赤くするなんて修行が足りないなあ」

女湯の話し声を聞きながら顔を真っ赤にしていたエリオに甲児が言い放つ。

しかしこの時甲児は滝の様に鼻血を流していましたが・・・

「へん、スターライト・ブレイカーやサンダー・スマッシュヤーが怖くて、機鋼獣と戦えるかよ」

桃源郷を拝む為なら収束砲の一発や二発は甲児には効きません。  
でもさやか鉄拳だけは勘弁・・・

「男つてのはな・・・少なからず罪を作ってるもんなんだよ」

かっこいい感じの台詞ですが場所が場所だけにしっくり来ません。  
案外惜しい台詞でした。

「分かったぞ！わしは誰かと融合出来るのではなく、誰かと誰かを融合させる事が出来るユニゾンだったんじゃない」

この時には沢山ネタがあつたのですが後になって話をぶち壊す存在だと分かり止めました。

我ながら本当に頭が痛い台詞です。

「高町達から頼まれたのだ、今日の特訓は甲児を・・・殺す気でやれ・・・とな」

「日頃の行いが悪かったからこうなったんだ。恨むならこんな風になつた自分を恨みな」

これに懲りたら覗きはしないで欲しいと思うのだが、残念ながらダイナミック世界では一度や二度三途の川を拝んだ位ではやめません。

「このままお前が無茶な特訓を続けていったら、きっと・・・お前の仲間が泣く事になるぞ」

かつて自分も同じように仲間を泣かせてきたからこそ甲児が言つととても大きな意味に聞こえる気がします。懐の広い甲児ならではの台詞でしょうね。

「泣きたきゃ泣け、俺の胸でよけりや貸してやるよ」

ティアナの胸中を聞いた甲児がティアナに言った台詞。

こうしてみると甲児ってやっぱりフォワードメンバーの良い兄貴分ですね。

「俺達が命がけで戦った勲章が・・・あの町の景色なのさ」

例え見返りがなくとも彼等はこうして掛け替えの無い物を貰っているのです。

だからこそ彼等は巨大な悪に闘う事が出来るのです。そう思えるような台詞にしたかったです。

「これなら将来良い嫁さんになるぜ！頑張つて落とせよ」

甲児さん、幾ら何でも10歳のエリオにその台詞は早すぎるのでは？



「シャルは自分では料理上手と思ってるらしいが、それを食べて病院送りになった者は数知れずだ、気をつける」

此处でもシャルの殺人料理は健在の様です。

「当たり前や！うちの料理を食べたら口から波動砲が出せるからなあ」

例えにしてもネタが古すぎました。

コレ知ってる人は・・・何人居るかなあ？

「へへ、それが俺、兜 甲児様よ」

異世界でも美人には弱い男。  
それが彼である。

「他にも甲児は酔った勢いであんな事や、こんな事もしたっけなあ」

はやての悪ふざけの犠牲になった悲しい甲児。  
これに懲りたら深酒は厳禁って事で。

「お前はマジンガーの代わりになる必要は無いんだよ。お前はお前だ！こうして一緒に戦ってくれるだけでも俺は頑張れるんだ。だからあんま思いつめるなよ。」

思いつめるエリオに甲児が言った言葉。

見てないようで甲児はちゃんと皆を見ているみたいですね。

「ボス？それが名前なのか？ふざけた名前だな」

因みにボスの本名は作者さんも知らないみたいです。

「聞こえなかったのか？『私一人では厳しい』と言ったのだぞ」

ガミアがなのは達に言った台詞。

ガミアを知ってる人ならこの後の展開を見た途端戦慄を覚える事でしょう。

「人間とはつくづく哀れな生き物だな。我々のように恐怖を感じなくなれば楽な物を」

普通機械が恐怖を感じたら変ですよ。

だから機械であるガミアには恐怖を感じる人間を不便と考えるので

しょう。

悪夢！！マジンガーZ対ゲッターロボ　より

「今の俺には頼りになる仲間が居るんだ！こいつらが居る限り負ける気は起きないぜ！」

仲間が居る事はとても心強い事です。  
それを痛感させられます

「おい！俺様を忘れるなよ！」

この時正直本気でボロツトの事忘れてました。

「そりゃそうじゃろう、お約束じゃぞお」

技を放つ時や合体する時は必ず叫ぶ。

これは古今東西ロボットアニメならお約束な事です。

「フフフ、何とも心地良い響きよ。かつての仇敵とこうして再び合

間見えるとはな」

かつての好敵手との再会は甲児には嫌な想いでしようがDr・ヘルには嬉しい事だったのでしよう。

あんまり出番がなくてすみませんでした。

「あ……あれが……私達の……敵？」

この時初めて自分達がどれ程強大な敵に挑んでいたのかと言う事実を痛感させられます。

「ああ……あんな気迫を持つ男を見たのは……何年振りだろうか……」

この台詞から彼等が過去にどのような戦いを経験してきたかが予想できますね。

「エリオ……勝てるか？ じゃない……勝つんだ！ 俺達は勝たなきゃならないんだ！」

アニメで主人公側が常に『背水の陣』的な位置なのはお約束なのです。

そして其処からの一発逆転が燃えるのです。  
これこそロボットアニメの醍醐味ですね。

「許さねえ・・・機鋼獣共！あいつらを皆殺しにしてやるうう！」

さやかを失った甲児。

この時の甲児は正気を失い悪魔の道へと突き進んでいた筈です。

「機鋼獣の1体も倒せねえ奴がデカイ面するんじゃねえ！奴等は俺一人で片付ける！てめえらは此処でジツとしてろ」

一見酷い言い方にも聞こえますがこの言葉の中には六課のメンバーを巻き込みたくないと言う甲児なりの不器用な優しさもあったのかもしれません。

ですが、その想いに気づいた人は果たして何人居たか・・・

集結！ロボット軍団！　　）　　より

「フハハハ、この時を待っていたのだ！マジンガー無き六課の本部を叩き潰す事など赤子の手を捻る事より簡単な事だ！ゆけい！機鋼獣軍団！」

機鋼獣達にとって恐るべき存在はマジンガーのみ。

そう思わせる台詞でした。

「機鋼獣共！貴様等のせいではさやかさんが死んだ！これはさやかさんの弔い合戦だ！！てめえら一人残らず・・・地獄に叩き落してやる！」

さやかを失った悲しみ、そして機鋼獣達に対する激しい怒りと憎しみが籠った台詞に仕上げました。

「あれは・・・間違いない！あれは破壊の悪魔だ！」

復讐に燃える者を人はヒーローとは思わない。

例え正義の為の戦いだとしてもそれは正義の味方ではなく『悪魔の化身』となってしまうのでしょうか。

「止せザルム！人間如きの言葉に耳を貸す必要などない！耳が腐るぞ」

この一言に機鋼騎士達が人間をどう見ているかが分かります。

「今のてめえは復讐って言う小さい目標に目が眩んだ愚かな小物だ！俺の知ってる兜 甲冑はそんな器の小さい奴じゃなかったぜ！」

友として、又ライバル？として甲児を叱咤するボス。  
彼が居なかったら甲児は立ち直れなかったでしょう。

「俺とマジンガーは復讐の為に戦ってきたんじゃない！人類の平和を守る為に戦って来たんだ！」

悪魔の化身がこの時初めてヒーローに振り返った瞬間です。

「やはり・・・お前は危険過ぎる・・・王の命令が無ければ直ちにこの場で殺せた物を」

この言葉の通り、兜甲児は悪党にとっては正に『触るな！キケン』な人物なのです。

「冷たいなあ・・・忘れたのか？私はかつて、お前のオシメを変えた事だっただろ」

・  
そんな意識もないときの事など甲児が覚えてる筈ありませんって・

「何言つてんだ！例え世界が変わっても、この剣 鉄也は世界にたった一人だぜ」

心強い助っ人の登場。

そしてこの余裕たっぷりの台詞である。  
にくいぞコンチクショウ。

「そつだ！お爺ちゃんはマジンガーは神にも悪魔にも成れるって言った・・・だけどマジンガーは神でも悪魔でもない！・・・人類の平和を守る正義の『魔神』なんだ！」

望めば全てを想いのままに出来る力を持っていると言うのにそれを私利私欲に使わず人々の為に利用する甲児は大変素晴らしい人だと僕は思います。

皆さんがもし神にも悪魔にもなれる力を手に入れたらどうします？

「やれやれ、こっちは雑魚掃除か・・・相変わらず美味しい所はしっかり頂く主義なんだなあ鉄也くんは」

呆れ口調で呟く竜馬。

ちやっかり美味しい所を持つていくのは鉄也さんだからこそな感じ  
がします。



「憶えておけ！マジンガーは貴様等のコレクションじゃない！平和を守る守護神だ！」

どんなに凶悪な兵器でも使い方を変えれば人類を守る事が出来る。逆にどんなに安全な物でも使い方を変えれば凶器へと変わる。最終的に神になるか悪魔になるかは人によるものなのです。

「あいつらに見せてやろうぜ！俺達ゲッターチームの強さをよお」

異世界でもゲッターチームのチームワークは健在です。

『何を言つとる！やる前から失敗する事を考える奴などおらんぞ！』

何事も前向きなのが肝心ですよ。

「それより何より、このボスボロット様が居れば正に鬼に金棒だぜい！」

見得張るのも結構ですが時と場合を考えましょう。

「当たり前だ！あんな奴等に倒される程落ちぶれちゃいねえよ」

戦闘のプロである鉄也だからこそ言える台詞です。

「安心しろ！元から変な顔してるからこれ以上変な顔になんねえよ」  
幾らなんでもそれは酷い言い方だと思いますよノーヴェさん。

「出来る事なら・・・今すぐにも本当の名を名乗って愛する息子をこの手で抱きしめたいですよ・・・ですが、私には父親を名乗る資格などないのです」

彼にとっては甲児も鉄也も大事な息子なのです。  
ですが鉄也の心を理解してやれず彼を傷つけてしまった負い目から彼は偽名を使うと言う選択を選んだのです。  
その言葉の中にはそんな彼、兜剣造の覚悟が伺えます。

大騒ぎ！宴会大騒動　　より

「やっべえ・・・勢い余って壊しちゃった・・・これじゃ此処の人に怒られちゃうなあ」

自分の命が狙われていた事よりも目の前の機械を壊してしまった事の方を心配する辺り弁慶の図太さと言うか鈍感さと言うのが伺えます。

「それに、先輩が言ってたんだ。『可愛い子ちゃんはどんな事があっても守るもんだ』ってさ」

先輩とは恐らくあの人でしょうね。  
それに弁慶なら恐らく教わってなくても助けたでしょう。  
そんな性格だし・・・

「さあ、皆の頭を少し冷やしてあげるわよん」

これはハッキリ言って悪ふざけです。  
気分を悪くした読者の皆様・・・誠に申し訳ありませんでした。

「フェイトちゃん・・・やっと私この小説で白い魔王になれそうだ

よ  
」

そう言うのはさんですが結局魔王にはなれず仕舞いでした。

「主よ・・・あんな私を犬扱いしてないか？」

嫌なら人型になれば良いのに・・・

外伝1 天才コック「兜 甲児」！？ 〵 より

「成る程、要するに使いつぱしりみたいなもんか」

使い魔に対してそんな発言するのは甲児位なもんです。

「美味しい！・・・でも、何故か悔しい・・・」

女性にとっては屈辱なのでしょうね。

登場！宇宙の王者　　より

（こんな時・・・あの人が居てくれたら心強いになあ）

この一言で甲児がその人にどれ位信頼を寄せているかがわかります。

（いや、兄上は常に我等の事を気に掛けてメニューを組んでくれるから安心出来るんだ。むしろ音を上げる兵士が情けないのではないのか？）

チンク達にとっては鉄也は良き兄貴なのでしょう。  
でも鉄也の特訓についていくのって相当な物ですね。

「良い！たかが10歳の若人わこどもに先を越された私達の心の痛みを死ぬほどの二人に思い知らせてやるのよ！」

とか言ってるティアナさん。  
號が泣きますよ。

「辛かっただろう・・・泣きたい時に泣けないのは辛いから・・・今は思いっきり泣け」

鉄也の少年時代はそれは悲惨な物だったと思います。

物心ついた頃には両親はおらず孤児として生き、剣造の元に引き取られてからは地獄の特訓の繰り返し。

気がつけば青春など謳歌する暇すら無かった悲しい人生です。

ですから鉄也には少女の辛さが痛い程分かるのでしよう。

「贅沢言つな！国家権力の狗でも生活は苦しいんだよ」

何時の世も不景気は辛いですね。

「良いか！奴等と戦つてんのはお前等だけじゃねえ！俺達だつて命掛けで戦つてんだ！そんなのに適わねえからつて尻尾巻いて逃げるなんざ出来る訳ねえだろうが！」

甲児に意地があるのと同じように暗黒寺にも意地があるのです。

「てめえにだけは言われたくねえ！良いか！絶対に妹を泣かせんじやねえぞ！そんな時は地獄の果てまで行つてもお前をぶん殴つてやるからよ」

妹想いのティードを氣遣う暗黒寺。

二人の友情の厚さがわかる一言にしました。

「すまねえな・・・俺が駆けつければあいつを助けてやれたってのに・・・」

友の死は辛い物です。

暗黒寺は知らず知らずの内に友の死を自分のせいにしていたのでしよう。

「ああ？知らねえなあ。俺たちは元々そんなに頭良くないんでなあ。だけどなあ・・・ダチ公を侮辱されて黙ってられる程、人間出来ちゃ居ねえんだよ！」

友を侮辱されて怒った暗黒寺。

ですがさすがに拳銃を突き立てるのはやりすぎです。

「下駄の緒が切れた際に結んであげると高感度がアップするよ」

JIDAIが違つてしょうが！

「こういう時はだな、年上の者としてあの二人の行く末を見守ってやるのが筋と言う物だろう。それを彼氏が居ないからと言う理由で詰まらぬ行為に走るなど、愚の骨頂だぞお前等」

最もな事を言うチンク。

ですが彼女はその後・・・

「悪いが、俺を頼ってきた子を無下に出来る程落ちぶれちゃいないんでな。それに俺は悪事に加担する気はさらさら無い」

普段は冷たい印象を感じますが鉄也も列記とした熱血漢です。目の前で困っている人を放って置ける筈がありません。

「つたりめえだろう！事件のある所暗黒寺あり！だぜ」

返ってややこしくなりそうな・・・

『ああ、だが一発勝負だ！ドッキングに失敗したら全ての終わりだと思ってくれ！』

こう言われると逆に燃えてきますよね。

因みにこの台詞の元ネタは言わずも知れたあのシーンです。



「悪魔め・・・」

普段は心優しい大介が円盤獣に対して言い放った言葉。  
彼の胸の内に眠る憎しみをそのままぶつけた様な言葉です。

「だからと言って何時までも寝ている訳には行かないだろう！体が鈍っちまう」

例え重症を負っても鉄也は特訓を止めないでしょう。  
流石特訓マニアです。

「俺は父親が何なのか知らないんだ。頼む、教えてくれ・・・俺はどうすれば良いんだ」

父親と言うのを創造の地獄の特訓でしか知らない鉄也にとって自分が父親になるのはとても大変な事でした。  
でも鉄也さんなら大丈夫でしょう・・・多分。

外伝2 7年振りの再会 〵 より

「いや・・・あの顔はきつと変人を通り越して変態よきつと」

貴方に言われたら本末転倒ですよ。

「でも、暗黒寺さんは国家権力の『狗』なんでしょ？」

ティアナにしては上手い冗談だとこの時思いました。

「だからよ・・・そんな気に病むな・・・お前がやった事は正しいんだからよ」

記者会見の際にもしティアナが暗黒寺を止めてなかったら確実に暗黒寺はその上司を射殺していたでしょう。

そうなったら二度と暗黒寺は娑婆に出る事は無かったと思われれます。この一言にはその感謝の想いが籠っているのでしょうかね。

StrikerS 編終幕

古代のマジンガー!? 〵 より

（ユーノよお、男見せねえと・・・なのは他の男に獲られちまうぜえ）

こつちの世界でなのは怖い人かも知れませんがダイナミックの世界ではもっと怖い人が居ますのでなのは寧ろ目茶狙い目なのだと思います。

「娘が心配か？鉄也」

「まあな、今頃首を長くして待ってるだろうし」

鉄也さんもこの時には一端の父親ですね。

「お前・・・それで調査って呼べるのかよ」

文化遺産を壊しちゃダメですよ。

「見てください、この絵は描かれた物でもなければ彫られた物でもない・・・まるで初めから其処にあったかのように描かれています」

あの時の台詞をそのまま抜き取った感じです。  
分かる人は殆ど居るかなあ？

「『遙か昔・・・我等人の子を守る為黒き魔神が神々に戦いを挑んだ我等はその戦いを後の世に伝える為、此処に書き記す』・・・って、書いてありますよ」

この記録は後に覚えておくと結構面白い事になるかなあと思ってわざとつぱく書きました。

「『黒き魔神の力で神々は退かせる事が出来た、だがその神々の中から最強の7人の将軍、そしてそれを束ねる大將軍が現れる魔神は苦しい戦いになるもこれに勝利し、我等人の子に光を授けてくれた』・・・って書いてありますよ」

誰と戦ってるか分かりますよね。

「『神々は遂に我等を滅ぼす事を決めた。今黒き魔神の前に立っているのは地獄の王、冥府の王である『暗黒神』である。暗黒神は地獄の業火で地を焼き海を枯らし、空を黒く染める黒き魔神もこれに挑むも力及ばず、我等人の子は、只救いを求め祈るしか道は無かった』・・・って書いてありますよ」

文章の書き方は某FPS風RPGを参考にしてます。そしてこれの相手も勿論分かりますね。

「『我等人の子、遂に冥府の王を封じ込める術を見つける。遙か昔、古代の失われし都より授かった呪われし書。我等はこれを用いて冥府の王を封じ込める事が出来た

だが、黒き魔神もまた神々との戦いに傷つき深き眠りにつく

魔神に選ばれし者・・・『ゼノン』と共に』って書いてありますよ」

此処で初めてゼノンを出しました。

名前だけですけどとても重要なキャラクターです。

多分『Force編』までは・・・

「それじゃ読みますね・・・『我等人の子を守りし黒き魔神・・・我等人の子はこの偉大なる黒き魔神をこの神殿に祭る。

黒き神・・・『ゴッドマジンガー』を此処に永遠に祭る

そして、何時の日か、再びこの地に災いが振り注ぐ時、魔神の戦士  
の意思を告ぐ者が現れ、必ずや災いを打ち滅ぼすと信じて』・・・  
・って書いてあります」

此処までスケールがでかくなったのには正直自分でも驚きです。

「剣造・・・どうやら今回の事件・・・ワシ等には無関係とは行か  
なくなっただぞ」

この一言に全てが詰まっている・・・風に書きました。

名言その？    D y n a m i c の章    S T S 編（後書き）

次回は無印編をお送りします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1681z/>

---

名言集 ver ~ D y n a m i C

2011年12月5日23時46分発行